

戦争放棄 69年の実績

(The Renunciation of War – A 69-year record.)

多喜 百合子

百聞は一見にしかず。
戦争のむごたらしさは
武器を介して殺された
その奪われたいのち
見るに耐えない ひとつひとつの死に様を
みることで はじめて伝わる。

戦争になると
家族として 隣人として 優しくった人間が
鬼になる。
鬼がなにをするか？
メディアが 正しく 伝えることで
戦争の恐ろしさがわかる。
相手も鬼になって
鬼同士で殺し合いを始める。

素手の
何倍 何千倍もの殺傷力をもつ
武器を手にして殺し合う。
最後は核兵器だ。
それに巻き込まれて
兵士よりずっと多くの
民間人、老人、子ども、生まれたばかりの赤子までが
殺されていくのが戦争。

しかし、
その生の死体が日本のメディアに載ることはなかった。
刺激が強すぎるから、
載せられた人の遺族がかわいそうだから、

死者に対して 失礼だから と

あの時 第2次世界大戦末期
日本では
銃後に残された小学生までが
学徒動員と称し
徴兵で男手を失ったあと
働かされた。
そして爆撃されて バタバタ死んだ。

日本は 戦争を始めた側だったにも関わらず
第二次世界大戦が終わったとき
平均寿命が
男性23.9歳、女性37.5歳 ※1
まで落ち込んだ。
しかも戦地で死んだ日本人兵士のうち60%が
餓死だったという有様。
世界中が周知の通り
近隣諸国で 約2100万人もが犠牲になった。
うち2000万人は民間人。

その後、69年間、
幸いにも日本人は
外国人を一人も武器で殺さなかった。
日本は新しい憲法で
『日本の外に出て 武器を使って戦う戦争を将来にわたって永久に放棄する。』
と誓ったからだ。
大きな 被害、加害体験の果てに
たどり着いた決意だった。

休みもとらず 蟻のように ただただ働くと
悪口も言われたが
2014年 現在 日本人の平均寿命は
男性80歳、女性86歳、
倍以上も伸びた。

生きるということ
それは赤子が 子供になり、おとなになって、
おじいさん、おばあさんになること。
時には 事故や病気で 達成できなくても
これは すべての人間に与えられた権利。
人と人との殺し合い 戦争なんかで
その権利を侵すことは できない。

☆

戦争の被害者、死に様について
本当のことは 何も知らない、わからない、学ぼうとしない
若い首相が
危機を煽り『国民を守るため』と称し
戦争への準備、
日本が再び殺し合いに加わる準備をはじめた。
敵だろうと味方だろうと人間の手で
死人の山を作り
積み重ねる準備を急いでいる。
今 国民にも国会にも問うことなく 一内閣の解釈だけで
敗戦後 誓った筈の 戦争放棄の憲法が なし崩しにされていく

被ばく者を含む
大量のむごたらしい死人の現場の映像まで隠していた。
8月15日の式典では 反省の言葉も消えた。
「お国のために 尊い命を犠牲にさせていただきました」
と戦死した人の家族に。
「戦争だったから 仕方がなかった」と 民間人に、
「安らかに眠ってください、平和な世界をのぞみます」と
締めくくった。

経済大国だけでは満足できなくて
軍事大国までめざす。
戦争への準備、
日本が殺し合いに再び加わる準備が進む。
日本のメディアにある

たとえ遠くの国の戦争であっても
死んだ人の写真、映像を
一切 載せない暗黙の了解。
その偽りの優しさを
巧みに利用し続けた歴代の政治家たち。

☆

もう 二度と
時の政治家たちに 騙されない力をつけたい。
国家間で する約束は
戦時に助け合う 安全保障条約でなく
どの国とも友好条約を結んで欲しい。
私たちは
国境を越えた 人と人とのつながりを
堂々と進める。

直視するのが
いかに辛くても
武器で殺された人間のひとりひとりの死の現場は
敵、味方関係なく 写真、映像、ぜんぶ
みせる義務がある。
私たちには 全部 見る義務が ある。
あるものは すべて 出しなさい。
美辞麗句に包まれたうその鎮魂はいらない、
威勢の良い戦果報告もいらない。

まず
戦争で奪われた命ときちんと向き合おう。
戦争放棄をあたりまえとし
鬼から人間に戻ろう。

注

※1 朝日新聞2014年8月15日付 社説より

※ 2 日本国憲法 第2章 戦争の放棄

第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。